

あけましておめでとうございます

2013年、皆様のご健康とご多幸を
お祈り申し上げます。

g o f + a i f { s f] z '
e p k n l f d f x f l b { s

ミランクラブ日本は今年で25周年を迎えます。会員の皆様に支えられ多くの活動をこなし、長年に渡りネパールのkan教育に貢献することができています。

昨年末、里子第一号（1990年）のラミタ・マハルジャンから嬉しいメールが届き、添付されている写真を見て、婚約を知りました。1月中旬には結婚することを聞き、これまで活動してきたミランクラブの年月を感じました。彼女は28歳、ネパールでは結婚年齢としては遅い方です。長年ミランクラブネパールのスタッフとして貢献してくれています。新しい家庭をもって誰よりも幸せになって欲しいと願っております。

1988年にミランクラブを立ち上げ、1990年に里子支援制度を開始しました。この間の2年間は、東京でネパール語教室やネパール料理教室などを開いてネパールの文化を伝えながらの市民活動を行っていました。それと同時に里子制度の下調べも行っていました。1990年ようやくミランクラブの目的に沿って経済的に恵まれない女子を里子として選び、奨学金を出すことができました。その第一号がラミタ・マハルジャンだったのです。当初、彼女は6歳でした。ご存知の通りネパールは男尊女卑の国で、女子が学校に行きたくても行けない大きな理由の一つになっています。それにカースト制度や貧困等の理由が加わります。ミランクラブはこうした環境にいる女子への支援活動を行っているのです。現在は310名の女子が毎月奨学金を受け、安心して学校へ通っています。

この数年間の間にネパールの政治は大きく変わり、2008年には王制から連邦民

衆共和制になりました。そして民主化から2年の猶予をもって新憲法ができるはずでしたが、もはや4年が過ぎました。政党間の争いや対立ばかりで総選挙も度々延期が続き、未だに新憲法制定の見通しが立ちません。現政権は今年の4月には総選挙を行うとは言っています。国民の安心と国の安定にはもう少し時間がかかりそうです。

国は教育予算を以前よりは増やし、多少の進歩は見られますが、今年の政府の統計による識字率は65%で、ここ数年あまり変わっていません。やはり地方の村々への教育の普及が鍵のようです。

国の目標では2015年までに識字率100%ですが、これまでは20年かけ20%上げるのがようやっとでした。教育の大切さは解かっている、まだまだ時間が掛かりそうです。この65%の内訳をみると高等学校卒（SLC合格者）はたったの10.2%なのです。そして全女性の識字率に関しては40%にも達していないのです。国の人口比率では男性より女性の方が多く、女性の就学率を上げない限り識字率も上がるはずはありません。男子優先の社会にあって多くの女子は小さい頃から家の手伝い、水汲みや畑仕事等々で男子以上の労働力を求められ学校へ行くこともままならず、結婚後は夫や子供のために朝早くから夜遅くまで働き、家計のための仕事も加わります。女性の献身的な支えが国の発展に寄与している現実を考えると、一日も早く女性の権利が保障されるようにと願い活動を続けてきています。

国の民主化に伴うテレビ、インターネットの普及により世界からの情報をより多くの人が得られるようになりました。

国は教育の大切さを痛感し、男女平等、人権尊重に力を入れ始めています。

しかし国の歩みは遅く、ミランクラブの活動はまだまだ必要です。

1. 奨学金制度

ミランクラブが里子制度を始めて23年が経ちました。この支援は会員からの会費で行っています。支援の対象は両親または父親（大黒柱）のいない女子です。ネパールでは貧困や男尊女卑の風習により学校へ行けない女子が大勢います。

現在の奨学金は小学生から高校生まで（10年間）月400ルピー、高校を一等級以上で卒業し、勉強を続けたい女子に限り月500ルピーを支援しています。

高校までの奨学金は返済を求めてはいませんが、その後の進学での奨学金は、就職後15年の間に返済するよう義務付けています。しかし短大進学の学生に500ルピーでは足りないため、特別里親を募集して、2年間で5万円（1年目3万円、2年目2万円）をお願いしています。この奨学金は卒業後の返済義務はないのですが、後輩たちのためにミランクラブのボランティア活動に積極的に関わろう促しています。

昨年SLCに合格し高校を卒業した里子は12名います。一等級以上で合格した10名には7名の特別里親から支援を受けることができました。

2. ミラン職業訓練所

毎年行われている職業訓練は、今年はラメチャープ村とシンドゥーリ村で行われました。訓練は6ヶ月コースで、22名の女性が裁縫コースを修了しました。現在は村で裁縫の仕事をしながら生計を立てている女性もいれば、家族の服を作るのに役立っている女性もいます。フォトボランティアグループの支援で1998年に建てられた職業訓練所で始まった職業訓練は女性の地位向上に大変役立っています。

コンピュータクラスも順調に講座を開いています。昨年の受講者数は19名でした。教育環境整備会員の方々の会費から

諸経費、教師の給与や設備費などを賄っています。裁縫コースでは材料費の一部を受講者が負担します。運営資金は充分ではないため年に2つのコースを行うのがやっとです。

職業訓練はミランダルマスタリ学園村を中心に行われていますが、マシン、コンピュータの空いている期間はミランクラブネパールの支部がある地方へも貸し出して職業訓練に有効活用しています。多くの女性たちが職業訓練を受けたいと思っていることが、地方に進出したことでよく分かりました。今後は教育環境整備会員も増やし希望に応えられるよう充実させていきたいです。

3. ミランダルマスタリ学校

地域の子供たちへの教育普及が目的で建てられたミランダルマスタリ学校は昨年10周年を迎えました。2002年に岐阜淡墨ロータリークラブの支援により小学校として開校されました。ネパール教育省の登録方針で学校に運営能力があった場合、毎年一学年ずつ増やすことが認可されます。ミランダルマスタリ学校は順調にそれを満たしてきており、現在10年生までの学校になっています。そして昨年はネパールの学校教育の中でもっとも難しい試験と言われている高等学校全国統一試験のSLC試験に11名が受験し、全員無事に合格しました。合格者は特等級2名、1等級8名そして2等級1名でした。学校として初めてのSLC試験は合格率、内容共々とても評価できる成績でした。何故なら全国平均合格率は52.3%だったからです。

昨年はさいたまコープの助成金を受け、ディパク・ディタール校長とスニタ・ナカルミ副校長が来日されました。来日セミナー出席、日本の教育現場視察で多くのことを学ばれたようです。昨年10月25日から11月4日までの滞在で、東京の日本工業大学付属駒場高等学校、埼玉の川口市立幸並中学校、岐阜の本巣市立根尾小学校を訪問することができました。そして、さいたま新都心で行われた来日セミ

ナーでは両先生からネパールの教育現状やミラダルマスタリ学校の現状についての講演でネパールを愛する日本の方々の理解を得ることができたのではと思います。帰国した今、日本で経験して学んだネパールでも取り入れられる良い部分をこれからの学校教育に取り入れられるようミラダルマスタリ学校で頑張っているに違いありません。

学校は運営委員会の指導のもと教職員18名（男性7名、女性11名）で運営されています。始業時間は基本的に9:45、終業時間16:00ですが、低学年の場合は15:30で終了します。ミラダルマスタリ学校生徒数は小・中・高、幼稚園で281名です。またボランティア精神のもと運営している学校なので経済的に恵まれない子供たちの入学を優先しています。なお全生徒の1/3の生徒の学費免除を行っています。学費設定は村の子供たちが学校へ行けるようにと、他の私立学校から比べると1/4で、公立学校から比べても半分程度です。他の学校との違いは、学費が安い以外にも関わらず毎年全校生徒の健康診断を行っていることです。課外活動としては年に2回遠足があります。設備の良さと生徒への待遇の良さとで村周辺では人気の高い学校として名が通っています。

多くの子供たちは遠方から通学しているため、放課後は遊ばずに帰ります。近くの子供たちは校庭で遊んだりしますが、日本の部活に当たるものはネパールの学校にはありません。

4. ミラン図書館

ミラダルマスタリ学園村の周辺は幾つかの学校があります。しかしミラン図書館ほど蔵書が揃っているところは他にありません。図書館には、幼稚園から大学生まで幅広く使える図書が揃えられています。そのため他の学校からもミラン図書館を利用しに来ます。この図書館は、埼玉県国際交流協会の助成金で2005年に平屋建てとして建てられました。その後、

多くの団体や個人から書籍、設備などの寄付があり現在は蔵書約8千冊が整備されています。

また図書館には毎日の新聞や雑誌も備えられています。そしてインターネットができる環境にもあります。コピー機なども備えられ学校の授業にも利用されています。

なおミラン図書館はミラダルマスタリ学校が運営をしており、地域の村人にも一部開放して有効活用されています。

5. ミラン寄宿舍

ミラダルマスタリ学校の敷地内にミラン寄宿舍があります。ここは遠方の生徒や経済的に恵まれない生徒（無料寄宿）が利用しミラダルマスタリ学校に通っています。この寄宿舍はひろしま祈りの石財団により2006年に完成したものです。寄宿舍にいる子供たちは殆んど地方からの子供で男子9名、女子8名です。校長先生を始めスミトラ・アディカリ司書、ルパク・アディカリ教師が同じ寄宿舍に寝泊まりし生徒たちの管理・生活指導、安全を守っています。それに調理担当の女性1名、ガードマン1名の計22名です。先生方の目の届く範囲内にいるため子供たちの親も安心して預けられます。寄宿舍の中では子供たちの交流も盛んです。そもそも治安の良い村ですがガードマンは夜も見回りをしています。

昨年はミランクラブネパール20周年記念訪問ツアーで日本からネパールへ、ダルマスタリ学校スタッフ来日でネパールから日本へと交流した実り多き年でした。今年はミランクラブジャパンが25周年を迎えます。ここまで長きに渡り活動を続けられたのも会員の皆様のご支援のおかげです。そして多くの団体、個人の方々のご支援にも感謝いたしております。

どうぞ今後とも今まで同様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

皆様にとって良い年でありますよう心から願っております。